

畳石

屋島の麓から屋島寺に続く遍路道（「巡礼の道」）には、仏像や地元の伝説に登場する場所が点在していますが、屋島の地質についての貴重な洞察も提供しています。自然の見どころのひとつは、畳の大きさを彷彿とさせる大きな長方形のブロックにちなんで名付けられた岩石層の「畳石」です。

この岩石に見られる特徴的な節理（水平方向の割れ目）は、屋島を形成した地質作用の証拠です。約 1400 万年前、火山の噴火によって当時谷であった一帯は溶岩で覆われました。この溶岩は固まってサヌカイトと呼ばれる黒い岩となり、谷に極めて硬い蓋のようなものを形成して、侵食から保護しました。数百万年が経過すると、谷の周りの山々は風雨によって侵食され、サヌカイトに覆われた谷が現在のような平らな山へと変わりました。畳石を構成する黒い岩はサヌカイトで、その節理は溶岩が太古の谷に水平に流れ込んで固まったときに形成されました。

岩を覆う粘土質土壌の薄い層も火山によるもので、この種の地質構造をした場所でのみ生育する植物を支えています。秋に黄と赤の鮮やかな色合いに変わる、鋸歯状の葉を持つ丈夫なイワシデ（朝鮮シデ、*Carpinus turczaninovii*）の木、香りのよいピンクの花が咲くチョウジガマズミ（*Viburnum carlesii* var. *bitchiuense*）といった植物がこれらに含まれます。